

最近の経済動向

令和3年7月号

(北海道の景気動向～令和3年5月の経済指標を中心として)

一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに持ち直している

■生産動向

P1 生産活動(鉱工業生産指数)
持ち直しの動きがみられる

■需要動向(消費・投資)

P2 個人消費(百貨店・スーパー・コンビニエンスストア・専門量販店販売額、
インターネットを利用した一世帯支出額、新車登録台数)
一部が低い水準にとどまるものの、持ち直しの動きが続いている

P6 住宅建設(新設住宅着工戸数)
持ち直しの兆しがみられる

P7 公共工事(公共工事請負金額)
おおむね横ばいとなっている

P8 観光(来道者数、来道外国人数)
弱い動きが続いている

P10 輸出入(輸出額、輸入額)
輸出額、輸入額とも前年を上回った

■企業倒産

P11 企業倒産(倒産件数、負債総額)
倒産件数、負債総額ともに減少した

■雇用動向

P13 求人・求職(月間有効求人数・求職者数、月間有効求人倍率、完全失業率)
弱い動きが続いている

■物価動向

P15 物価(消費者物価指数)
消費者物価指数は前年を上回った

■企業の業況感

P16 企業経営者意識調査
前期から上昇している

P17 企業のみなさまから伺いました

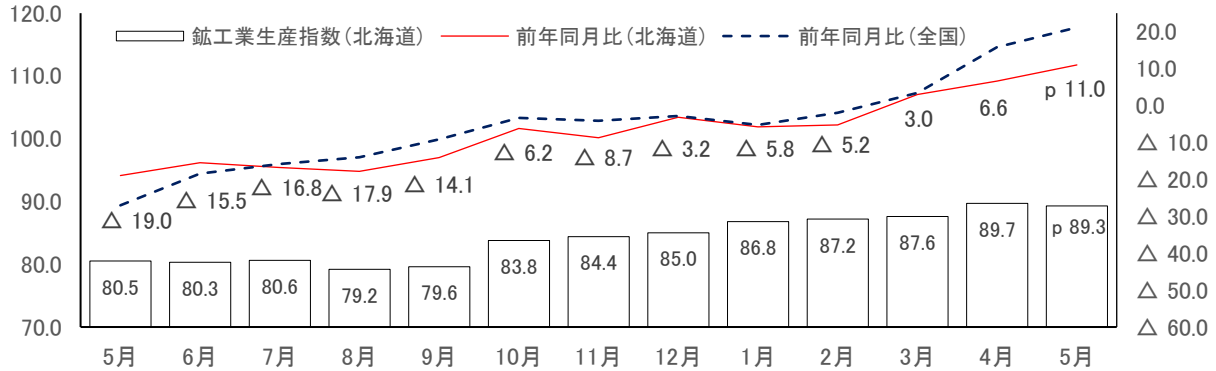
生産活動～持ち直しの動きがみられる

鉱工業生産指数（5月）

鉱工業生産指数(季節調整済)は、89.3 で前月比▲0.4%(9 か月ぶりに減少)であり、原指数による前年同月比は、11.0%(3 か月連続で上昇)となった。業種別にみると、輸送機械工業など 8 業種が前月比低下、鉄鋼業など 7 業種が前月比上昇となった。

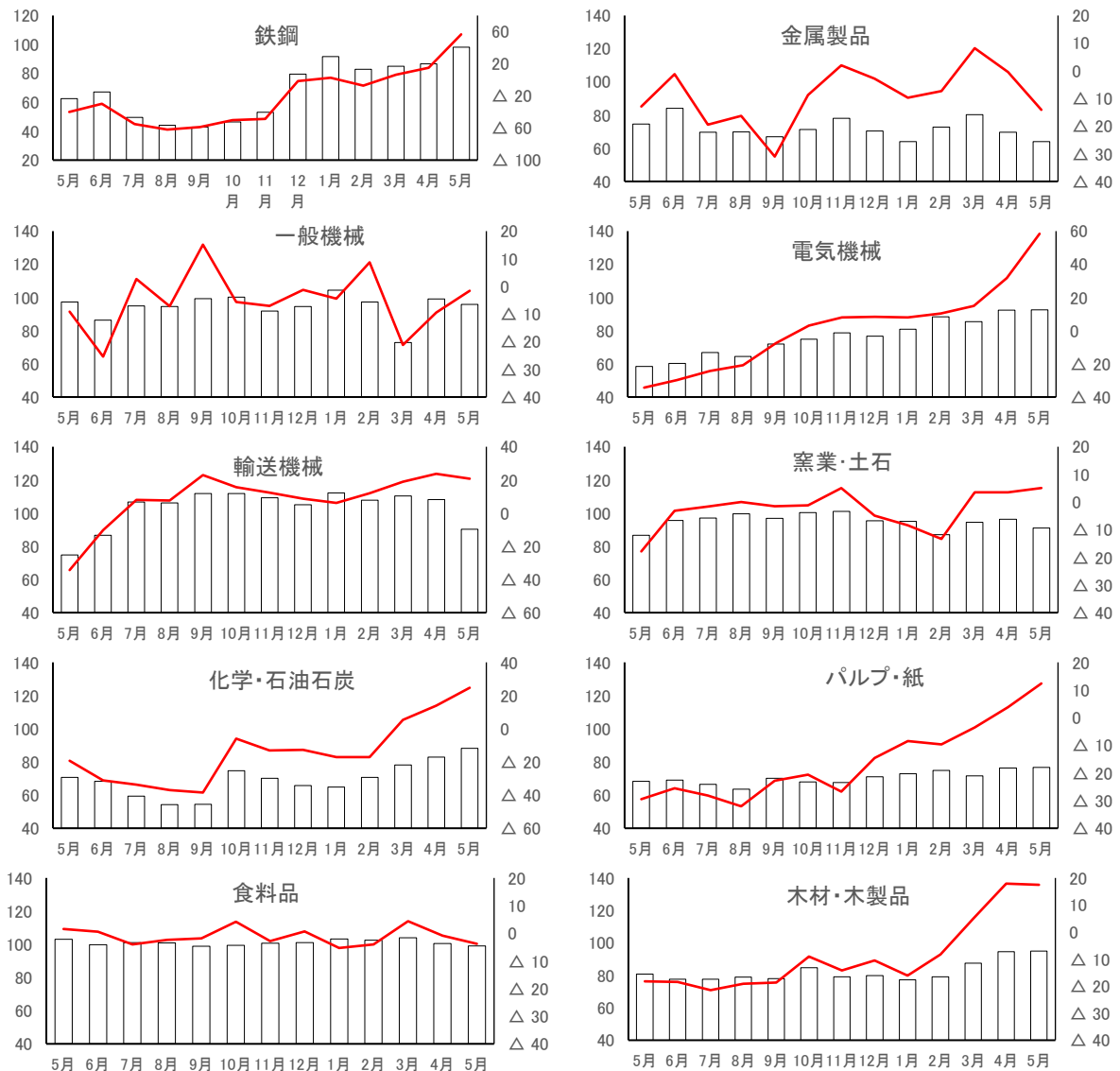
(季節調整済指数:平成 27 年=100)

(原指数前年同月比:%)



*「p」は速報値

■主な業種の季節調整済指数(右軸:原指数前年同月比%)

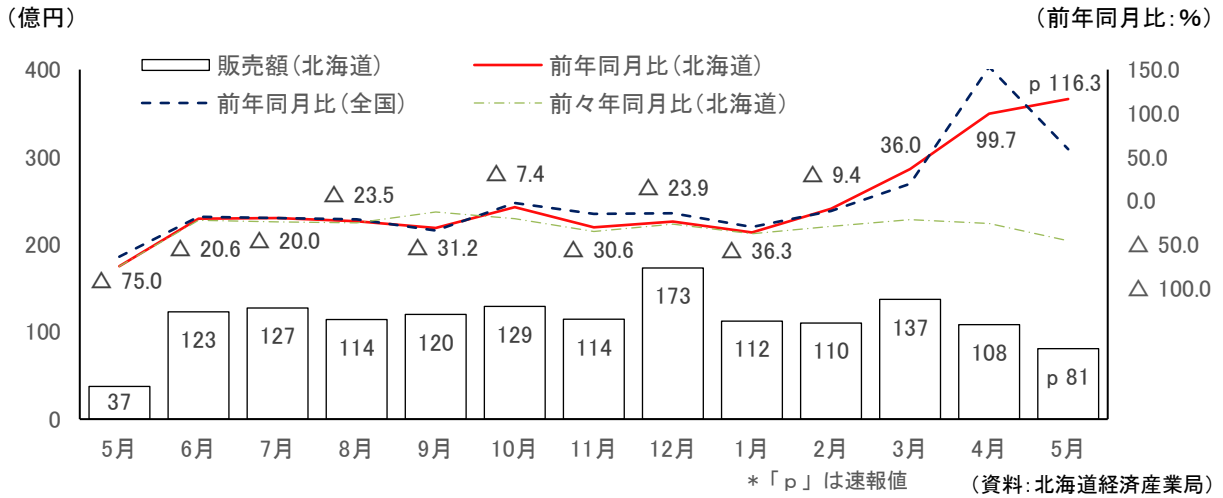


(資料:北海道経済産業局)

■個人消費～一部が低い水準にとどまるものの、持ち直しの動きが続いている

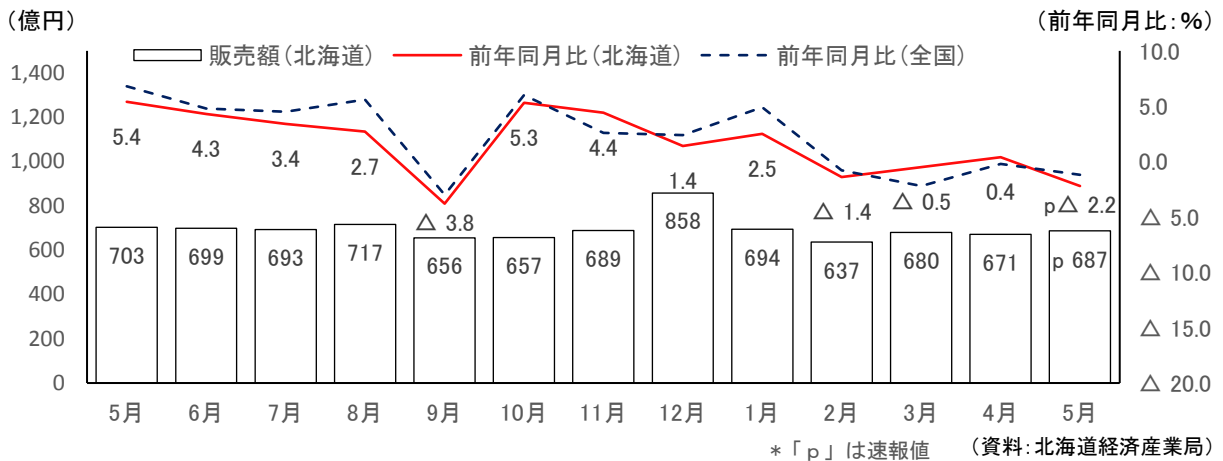
百貨店販売額（5月）

百貨店販売額は、81億円で前年同月比116.3%の増加となり、3か月連続で前年を上回った。



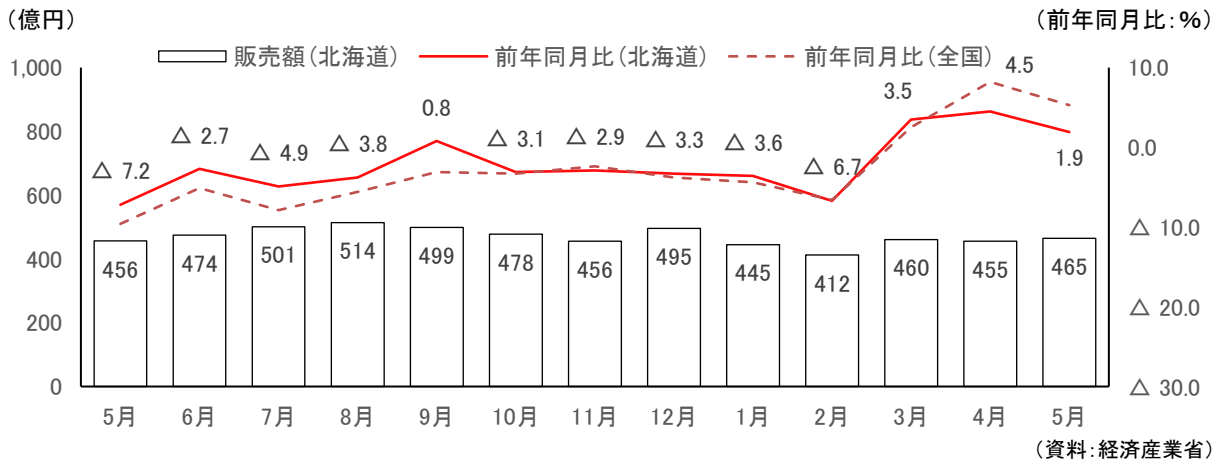
スーパー販売額（5月）

スーパー販売額は、687億円で前年同月比2.2%の減少となり、2か月ぶりに前年を下回った。



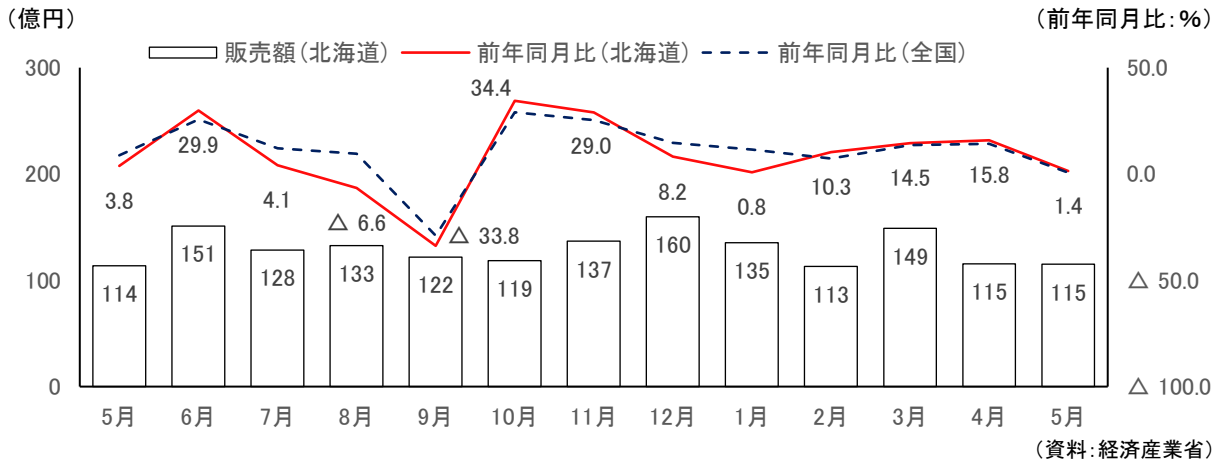
コンビニエンスストア販売額（5月）

コンビニエンスストア販売額は、465億円で前年同月比1.9%の増加となり、3か月連続で前年を上回った。



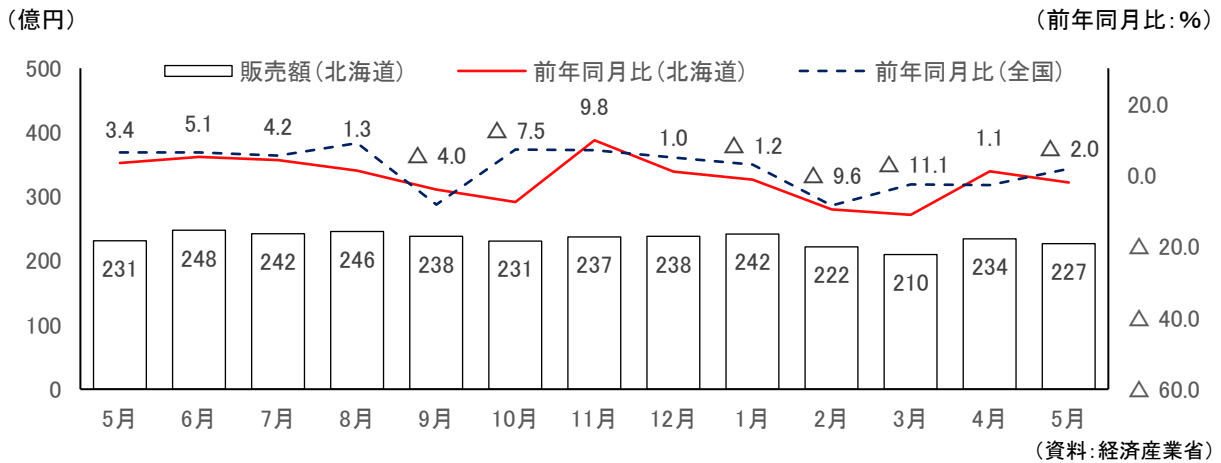
家電大型専門店販売額（5月）

家電大型専門店販売額は、115億円で前年同月比1.4%の増加となり8か月連続で前年を上回った。



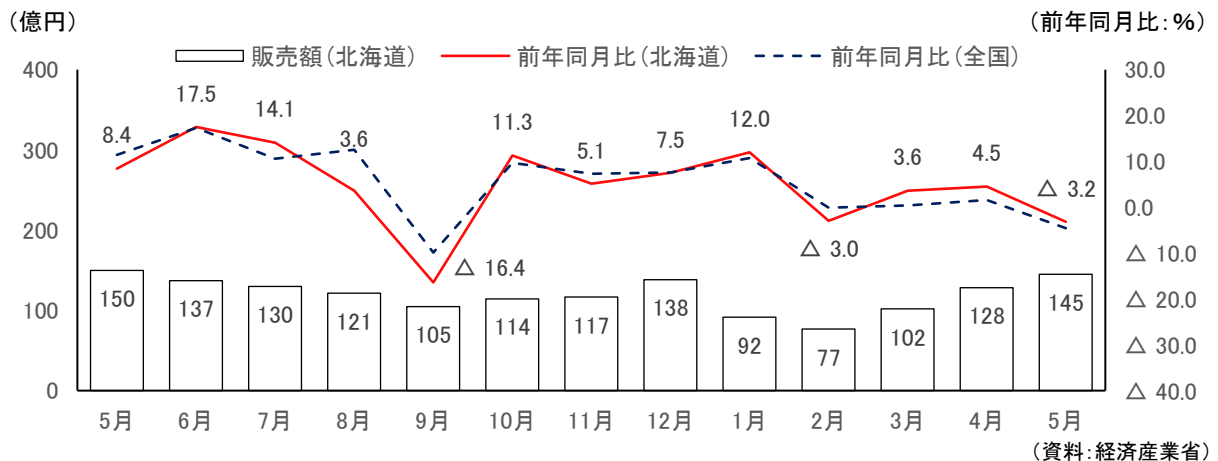
ドラッグストア販売額（5月）

ドラッグストア販売額は、227億円で前年同月比2.0%の減少となり、2か月ぶりに前年を下回った。



ホームセンター販売額（5月）

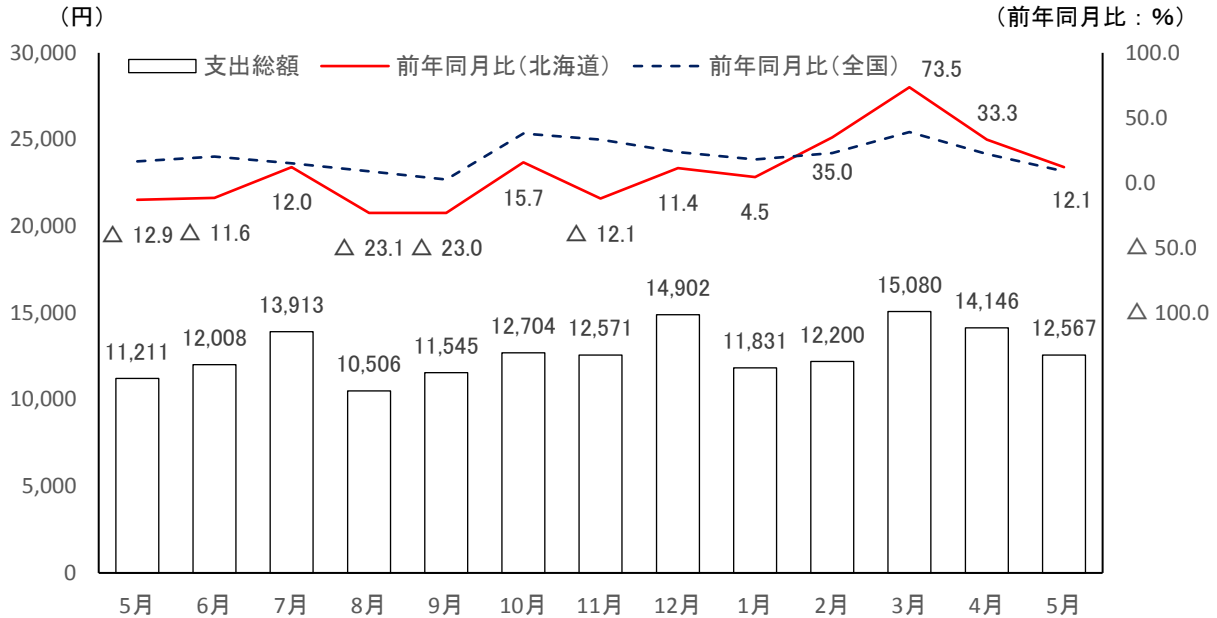
ホームセンター販売額は、145億円で前年同月比3.2%の減少となり、3か月ぶりに前年を下回った。



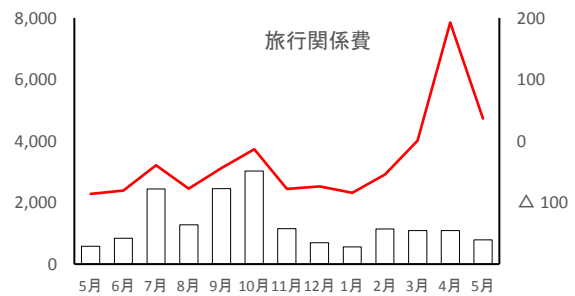
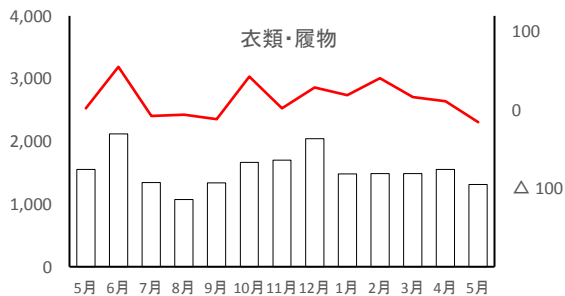
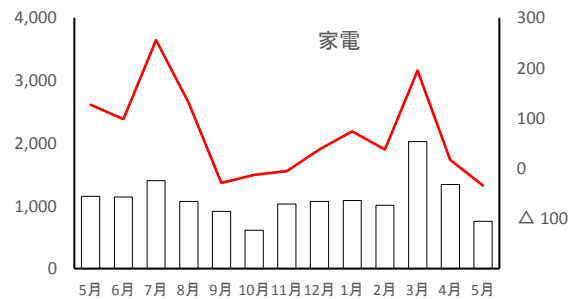
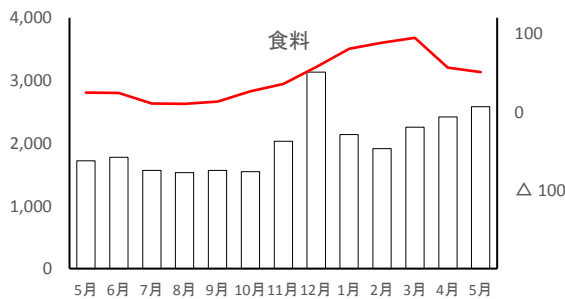
インターネットを利用した1世帯当たり1か月間の支出（5月）

インターネットを利用した1世帯当たり1か月間の支出総額は12,567円で、前年同月比12.1%の増加となり、6か月連続で前年を上回った。

品目別にみると、食料は2,584円で前年同月比50.5%の増加、家電は756円で同34.5%の減少、衣類・履物は1,312円で同15.5%の減少、旅行関係費が792円で同36.6%の増加となった。



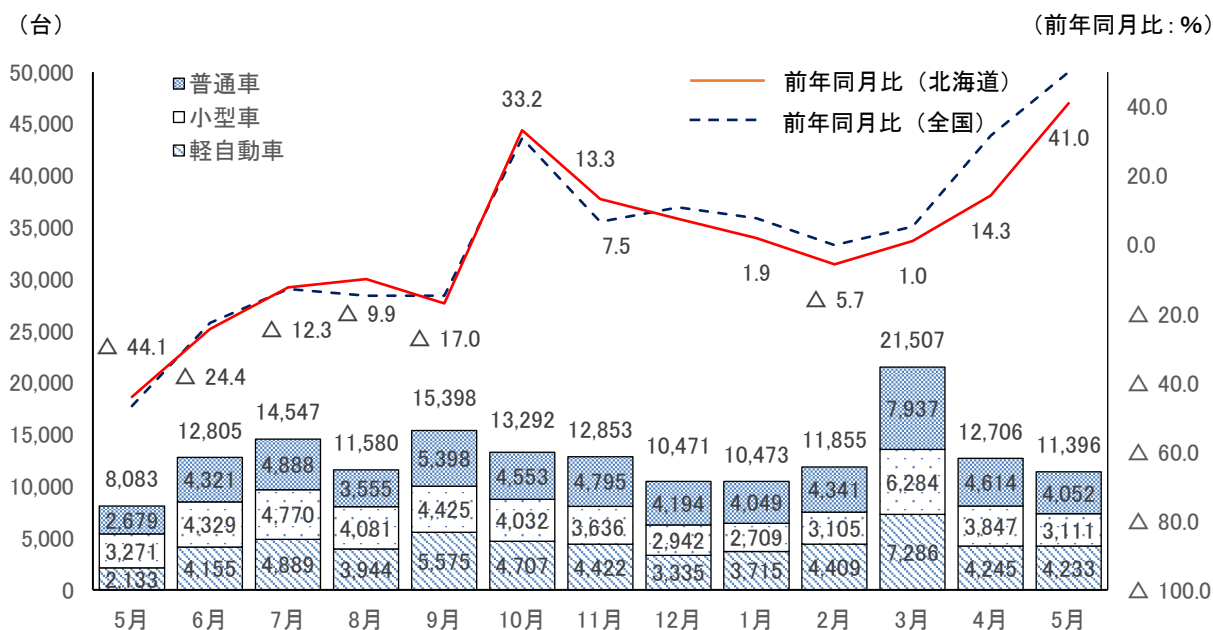
■品目別支出額（右軸：前年同月比%）



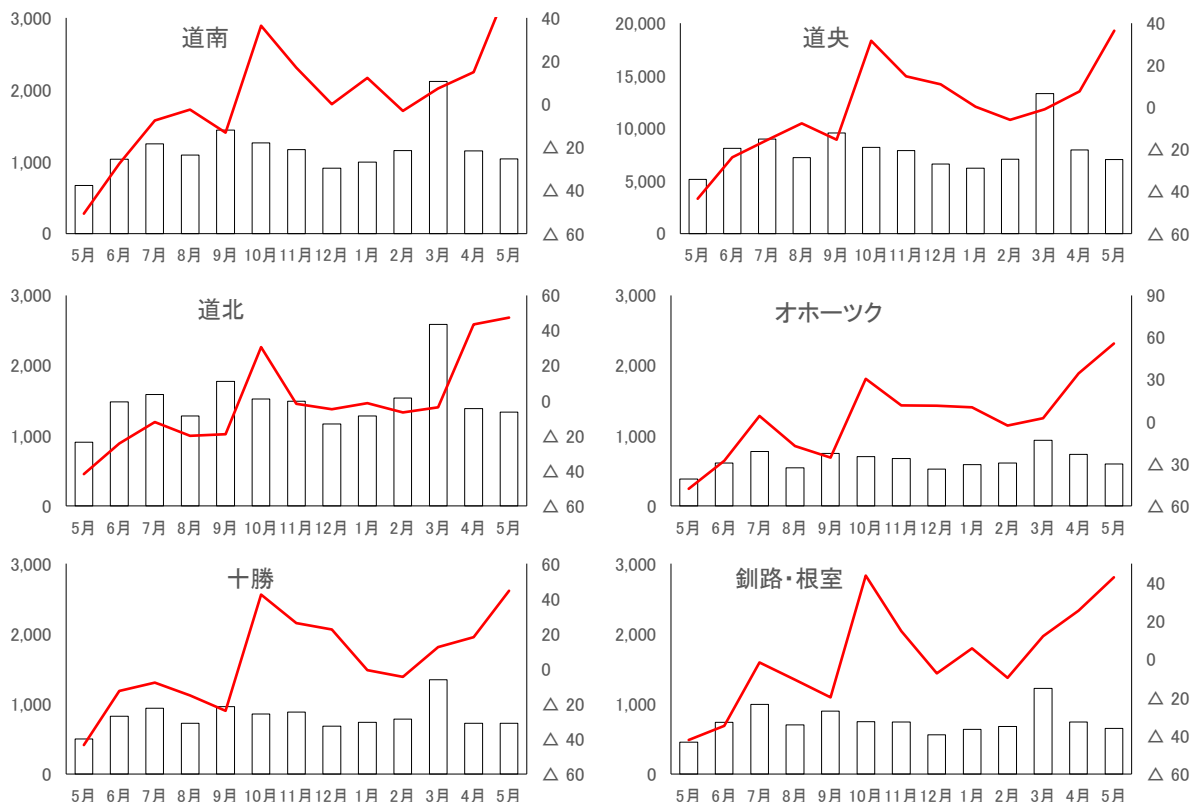
(資料:総務省)

新車登録台数（5月）

新車登録台数は、11,396 台で前年同月比 41.0%の増加となり、3 か月連続で前年を上回った。
 車種別にみると、普通車は、4,052 台で前年同月比 51.3%の増加、小型車は、3,111 台で同 4.9%の減少、軽自動車は、4,233 台で同 98.5%の増加となった。



■各圏域の新車登録台数（右軸：前年同月比%）

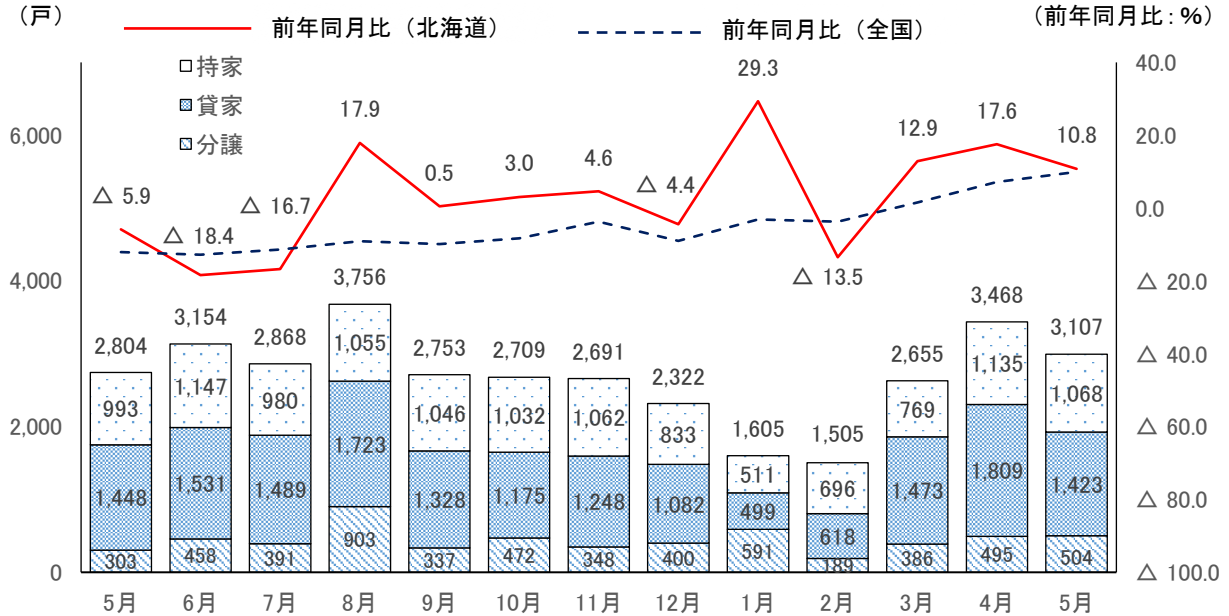


(資料：(一社)日本自動車販売協会連合会、(一社)全国軽自動車協会連合会)

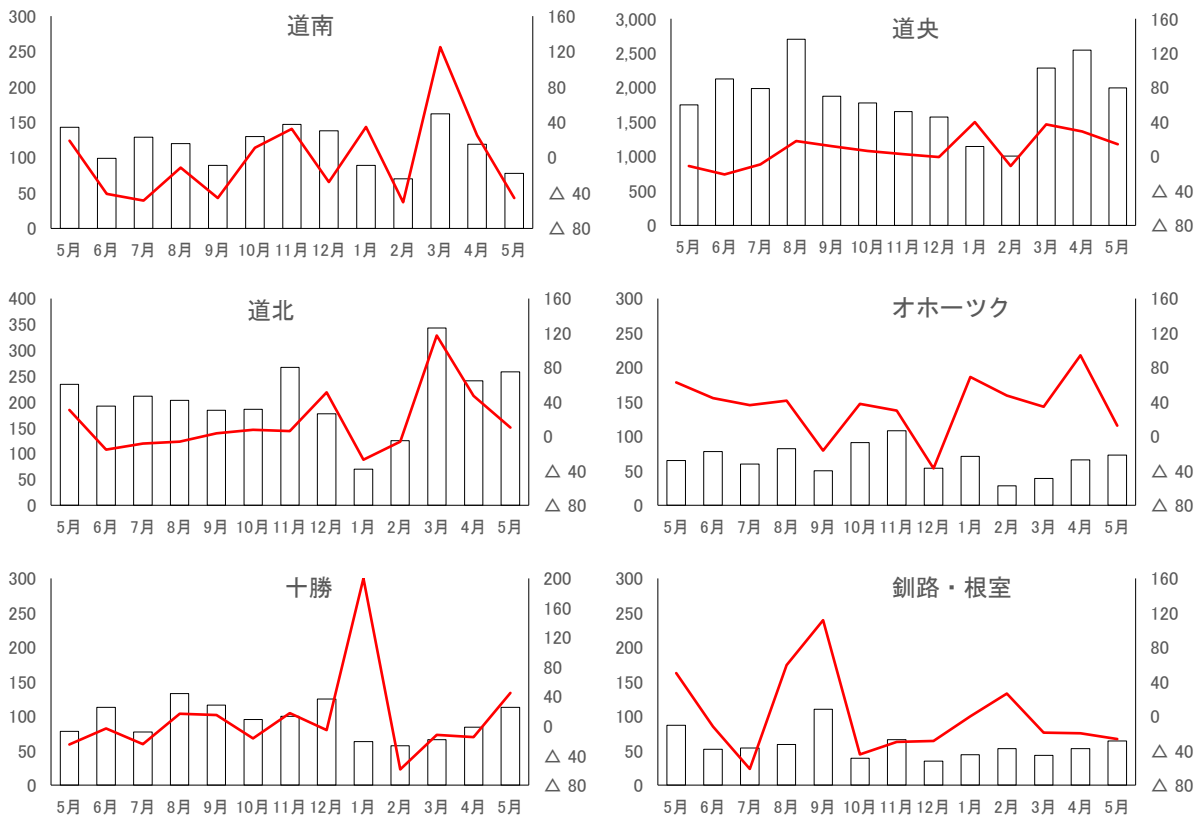
■住宅建設～ 持ち直しの兆しがみられる

新設住宅着工戸数（5月）

住宅着工戸数は、3,107戸で前年同月比10.8%の増加となり、3か月連続で前年を上回った。
 利用関係別にみると、持家は、1,068戸で同7.6%の増加、貸家は、1,423戸で1.7%の減少、分譲住宅は504戸で同66.3%の増加となった。



■各圏域の新設住宅着工戸数（右軸：前年同月比%）

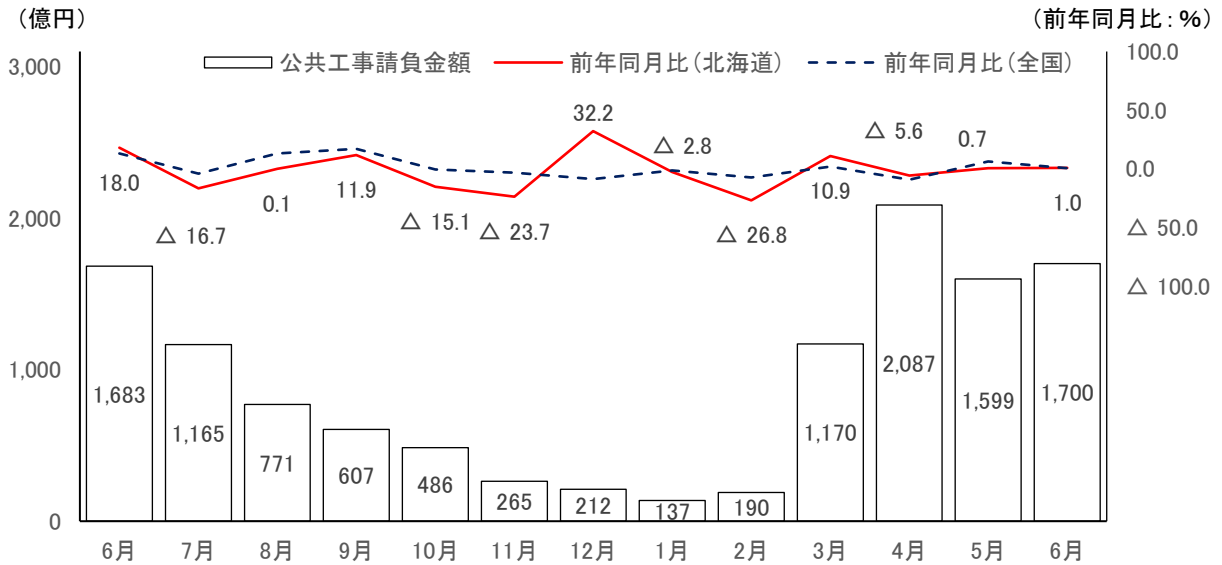


(資料:国土交通省)

■公共工事～おおむね横ばいとなっている

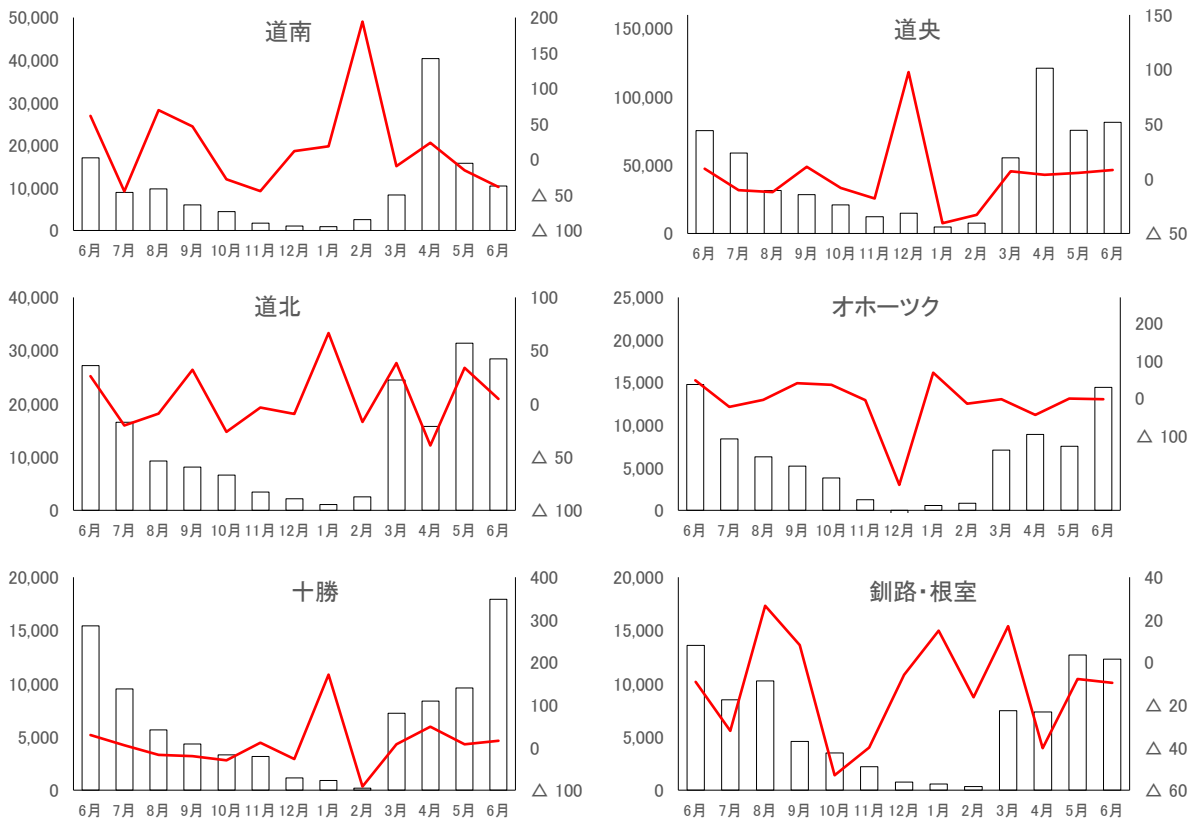
公共工事請負金額（6月）

請負金額は、1,700 億円で前年同月比 1.0%の増加となり、2 か月連続で前年を上回った。



(資料:北海道建設業信用保証(株))

■各圏域の公共工事請負金額（左軸：百万円、右軸：前年同月比%）

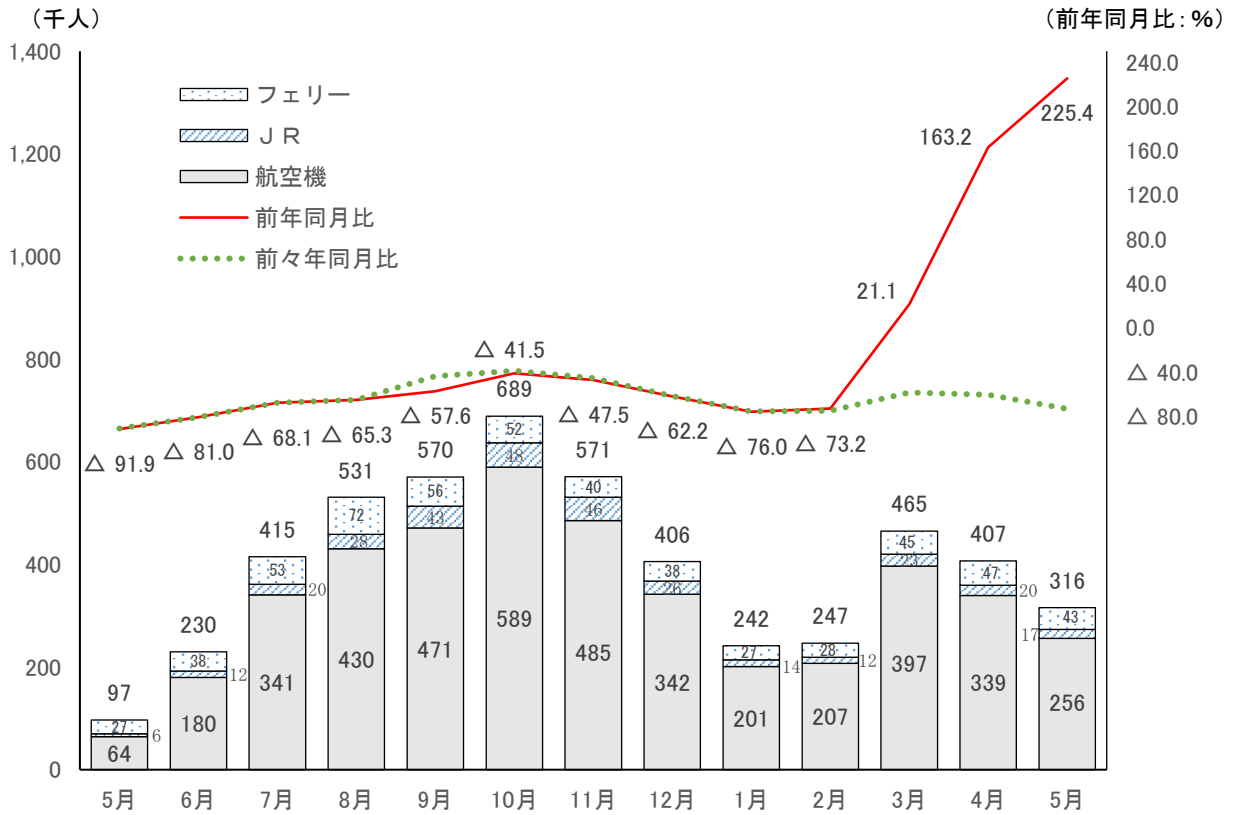


(資料:北海道建設業信用保証(株))

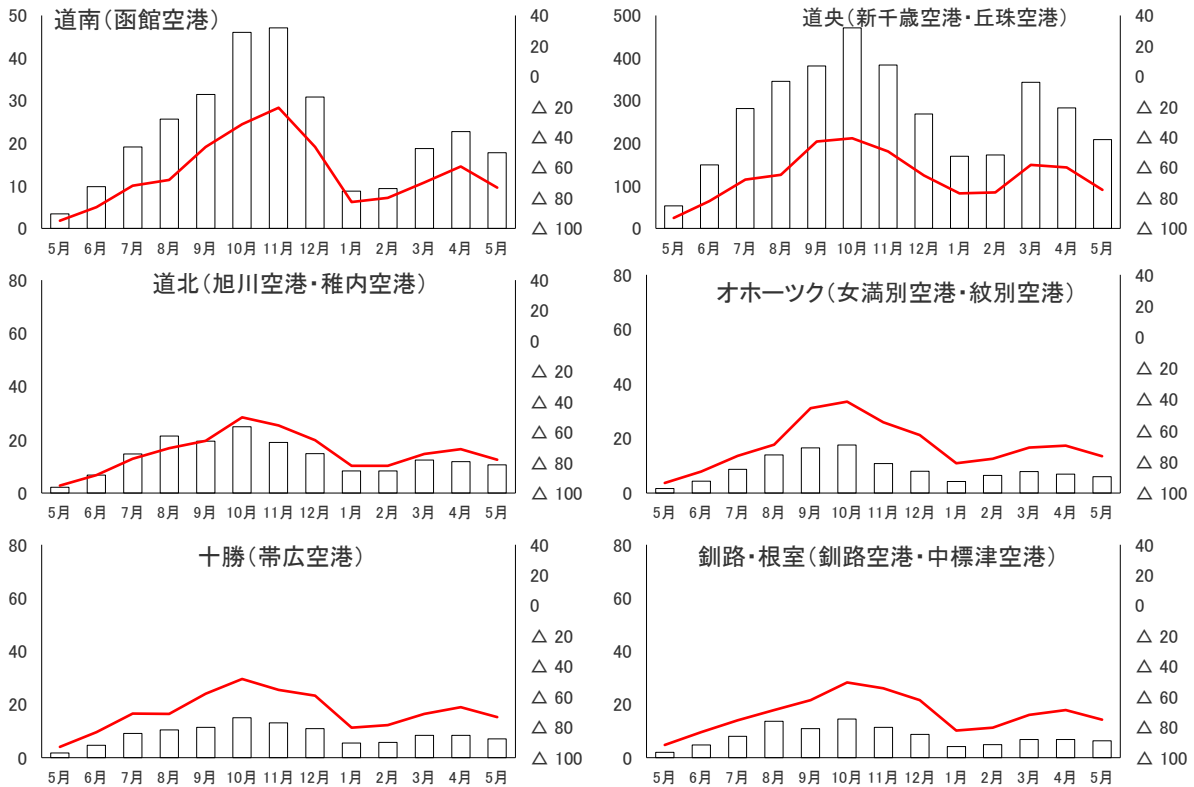
■観光～弱い動きが続いている

来道者数（5月）

来道者数は、31万6千人で前年同月比225.4%の増加となり、3か月連続で前年を上回った。



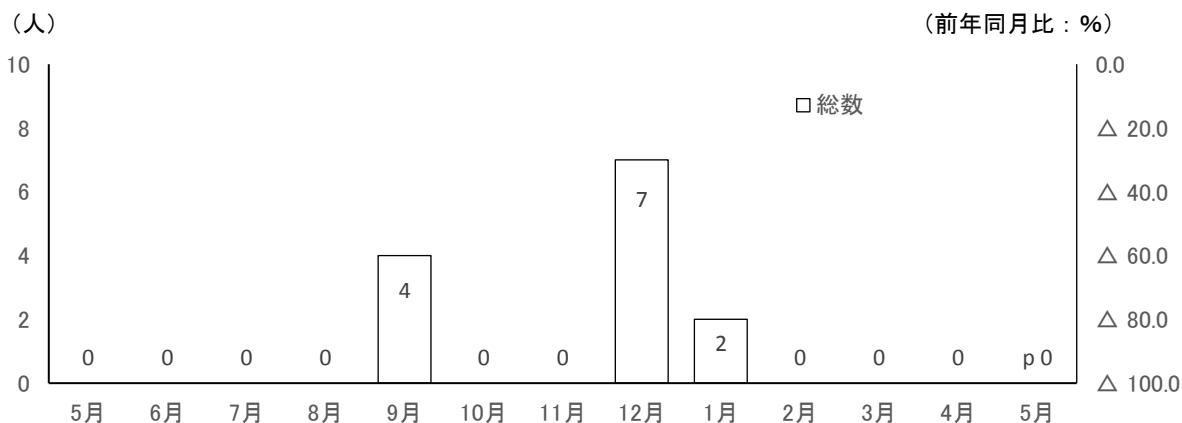
■各圏域の航空機利用による来道者数（左軸：千人、右軸：令和元（2019）年同月比%）



(資料：(公社)北海道観光振興機構)

来道外国人数（5月）

本道に直接入国した外国人は、0人となった。

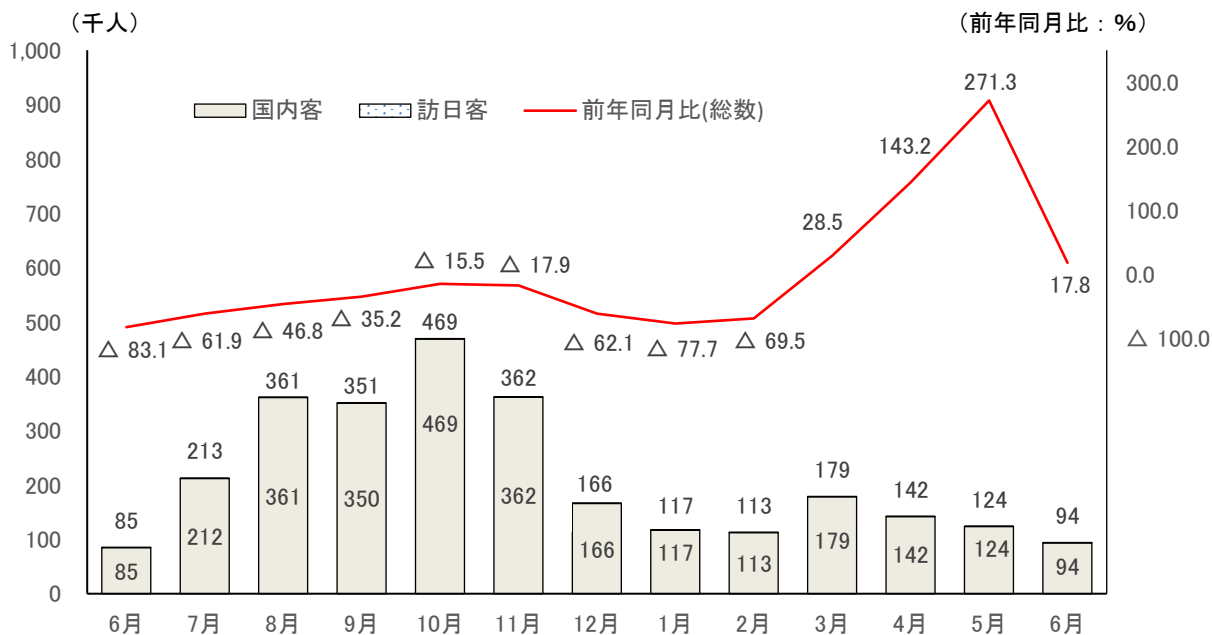


*「p」は速報値 (資料:法務省入国管理局)

宿泊者数（6月）

日本旅館協会加盟施設の宿泊者数は、93,785人で前年同月比17.8%の増加となり、4か月連続で前年を上回った。

このうち、国内客は93,748人で同17.9%の増加、訪日客は37人で同60.2%の減少となった。



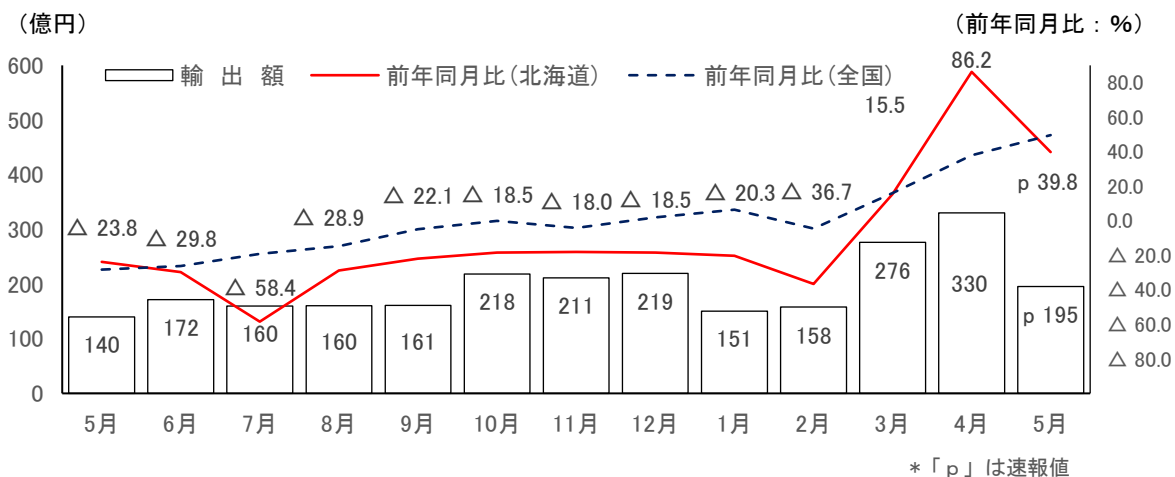
(資料:日本旅館協会北海道支部連合会)

■輸出入～輸出額、輸入額とも前年を上回った

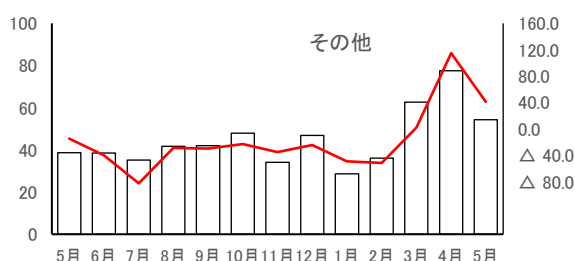
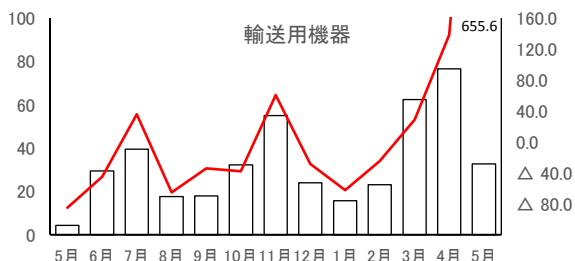
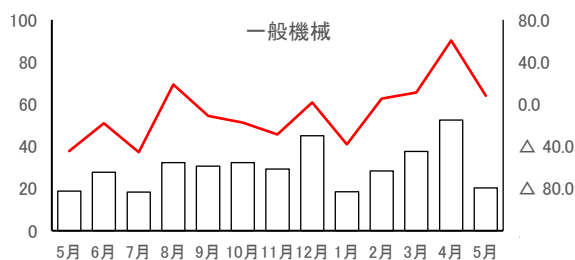
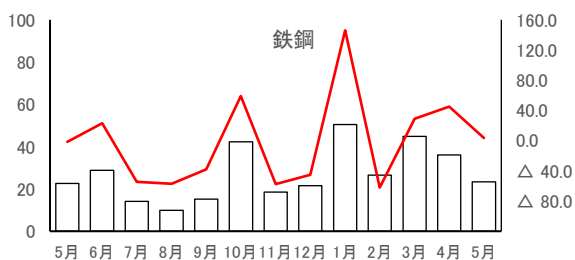
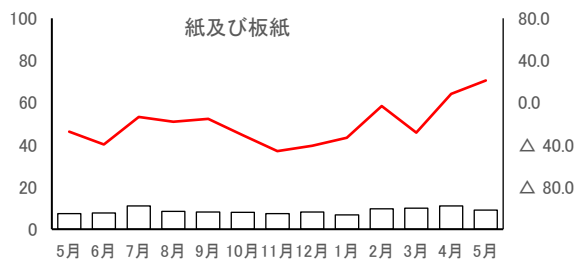
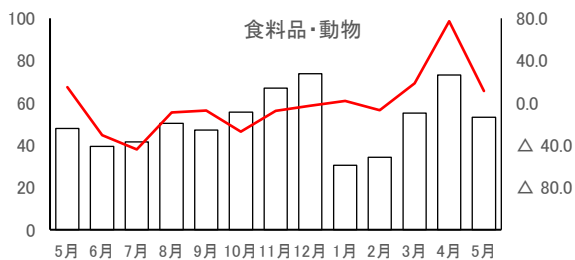
輸出額（5月）

輸出額は、195 億円で前年同月比 39.8%の増加となり、3 か月連続で前年を上回った。

品目別にみると、自動車の部分品、鉄鋼くず、石油製品などが増加し、石炭・コークス・練炭、電気機器、その他化学製品などが減少した。



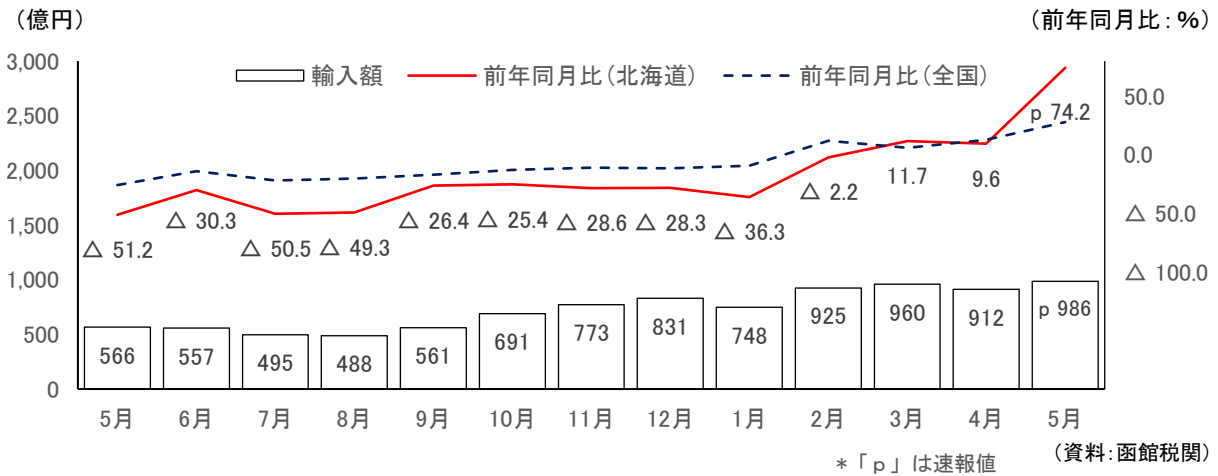
■種類別の輸出額（右軸：前年同月比%）



(資料：函館税関)

輸入額（5月）

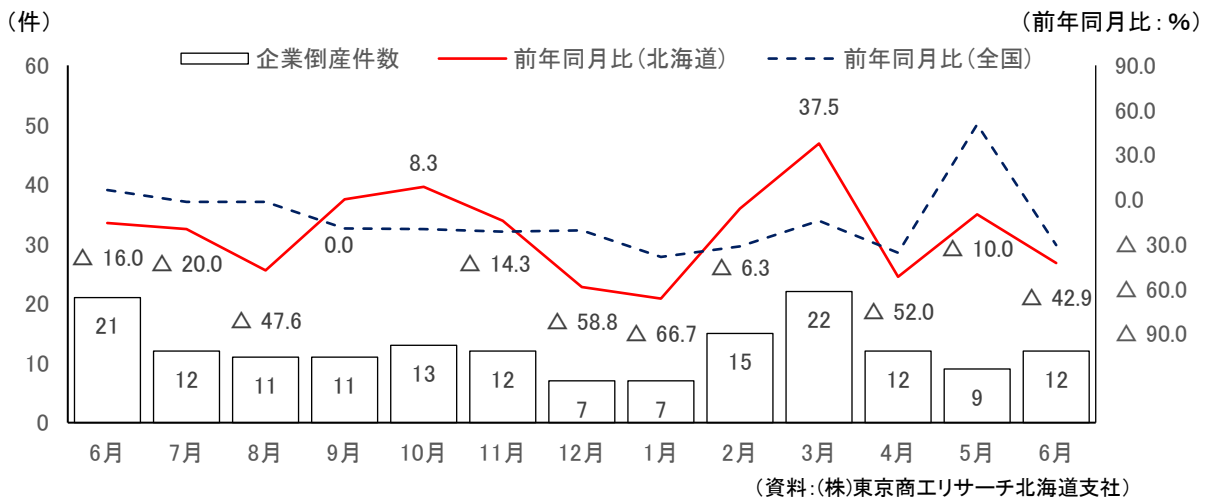
輸入額は、986億円で同74.2%の増加となり、3か月連続で前年を上回った。
品目別にみると、原油・粗油、石油製品、石炭などが増加したが、再輸入品、鉄鋼などが減少した。



■企業倒産～倒産件数、負債総額ともに減少した

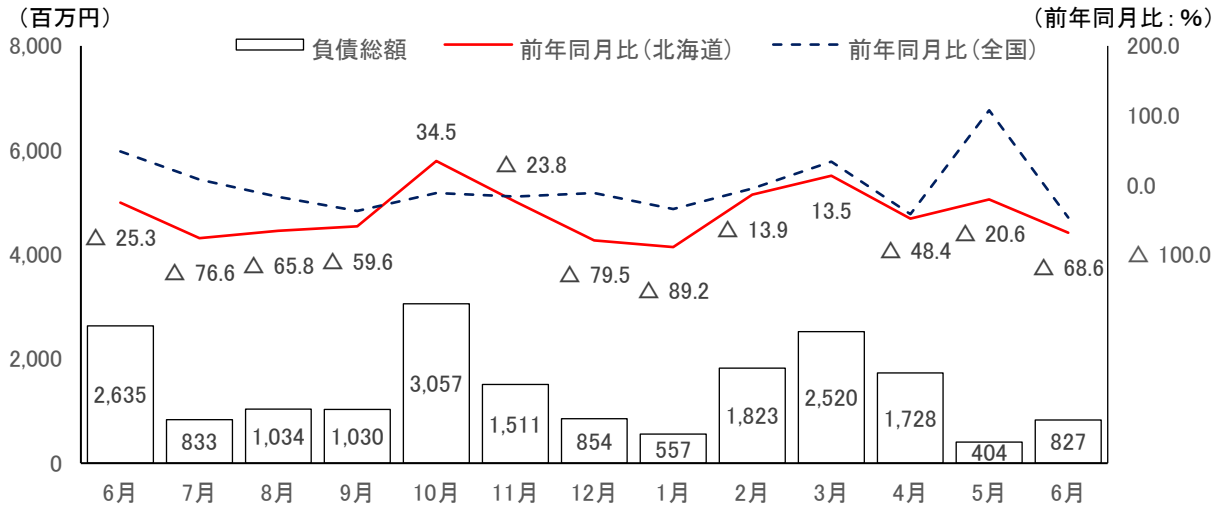
倒産件数（6月）

企業倒産件数は12件、前年同月比で9件の減少となった。
原因別でみると、販売不振が9件(構成比75.0%)、偶発的原因が3件(構成比25.0%)であった。
業種別でみると、卸・小売業が5件(構成比41.6%)、サービス業が3件(構成比25.0%)、製造業が2件(構成比16.7%)、情報通信業が1件であった。

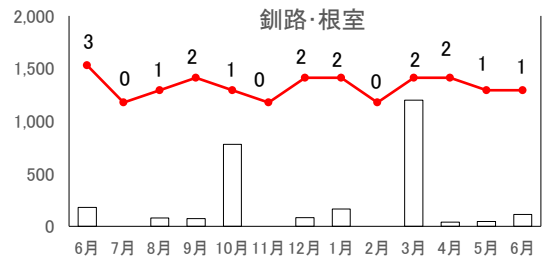
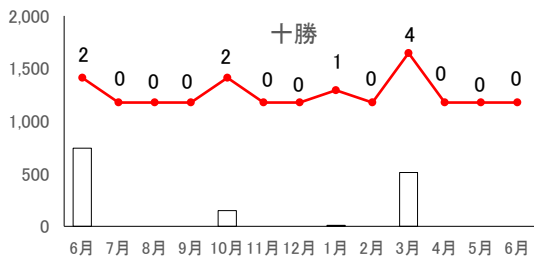
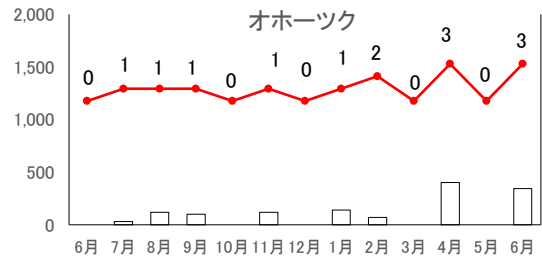
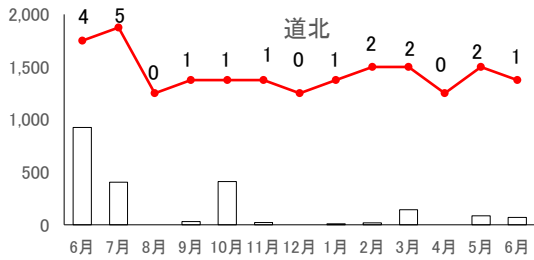
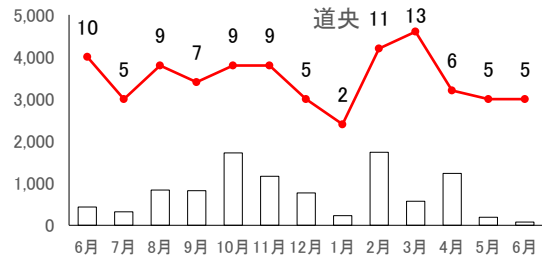
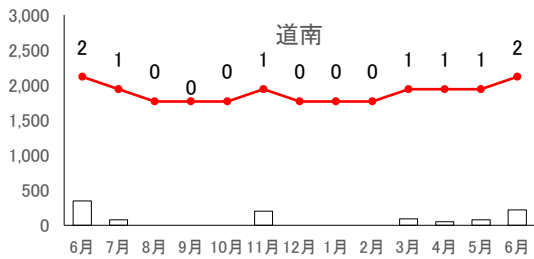


負債総額（6月）

負債総額は、827百万円で同68.6%の減少となり、3か月連続で前年を下回った。



■各圏域の負債総額と倒産件数（折れ線）



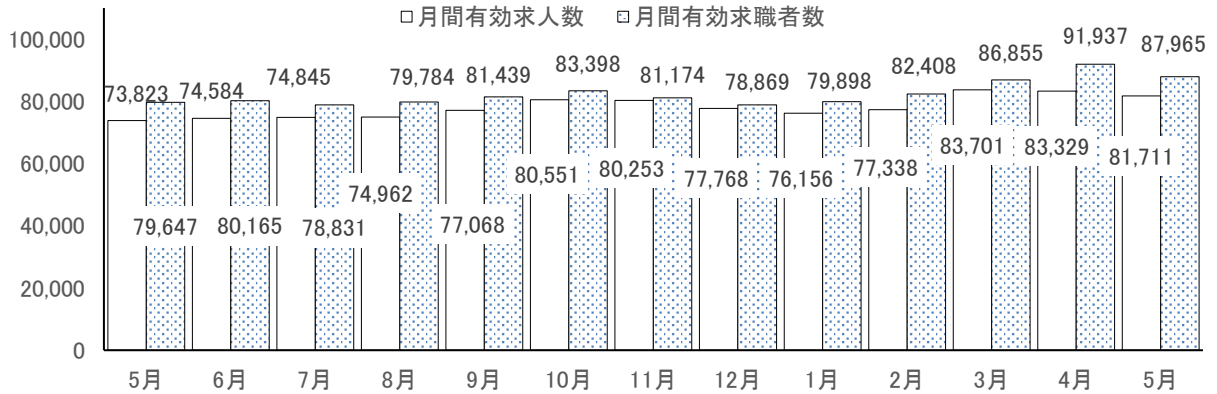
(資料):(株)東京商工リサーチ北海道支社)

■求人・求職～弱い動きが続いている

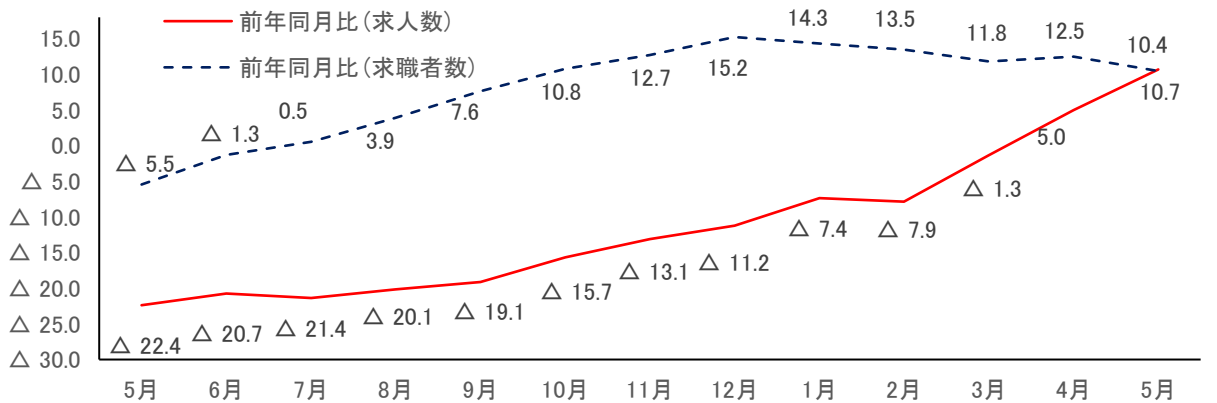
月間有効求人数・求職者数（5月）

月間有効求人数は、8万1,711人で前年同月比10.7%の増加となり、2か月連続で前年を上回った。月間有効求職者数は、8万7,965人で同10.4%の増加となり、11か月連続で前年を上回った。

(人)



(前年同月比：%)



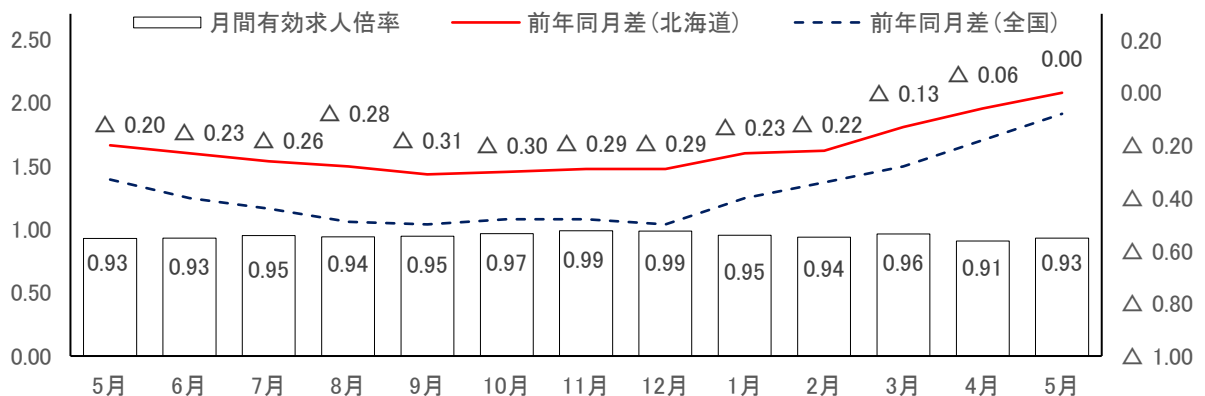
(資料：北海道労働局)

月間有効求人倍率（5月）

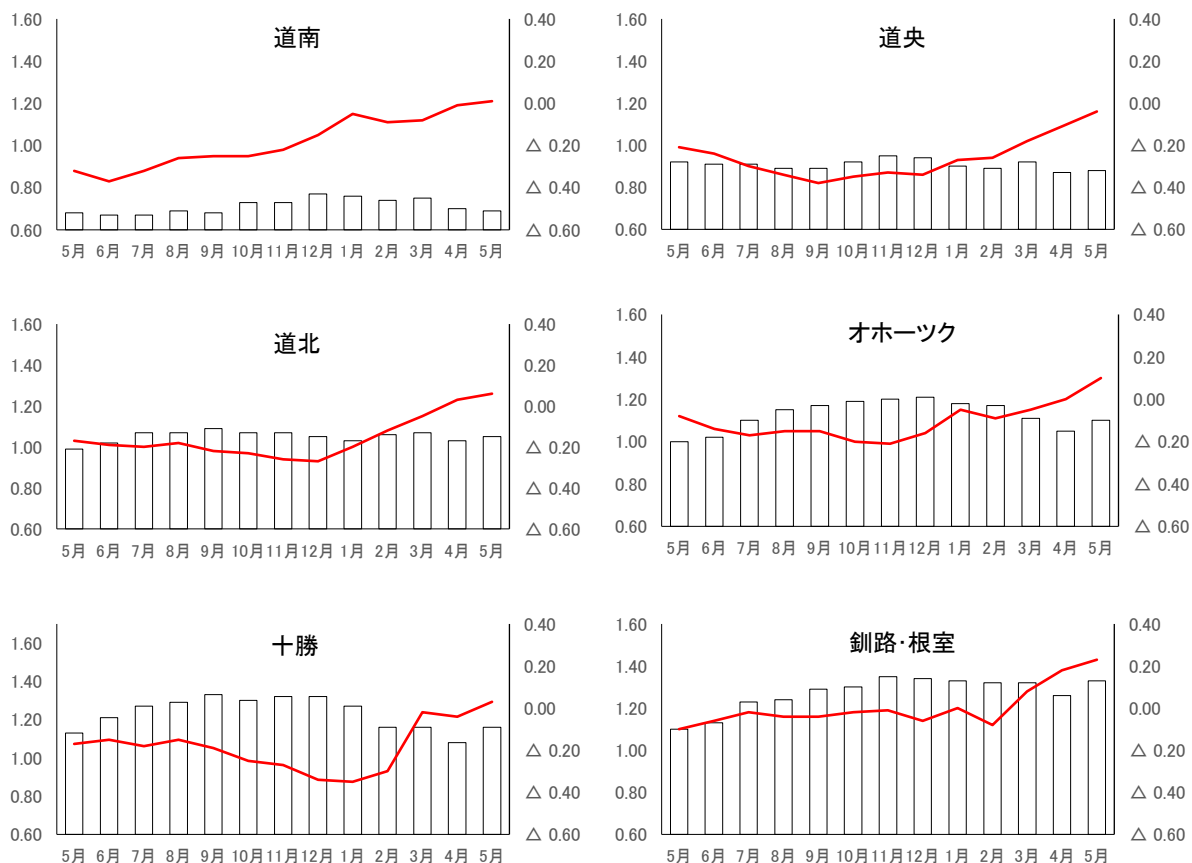
月間有効求人倍率は0.93倍で、前年同月と同水準となった。

(倍)

(前年同月差：ポイント)



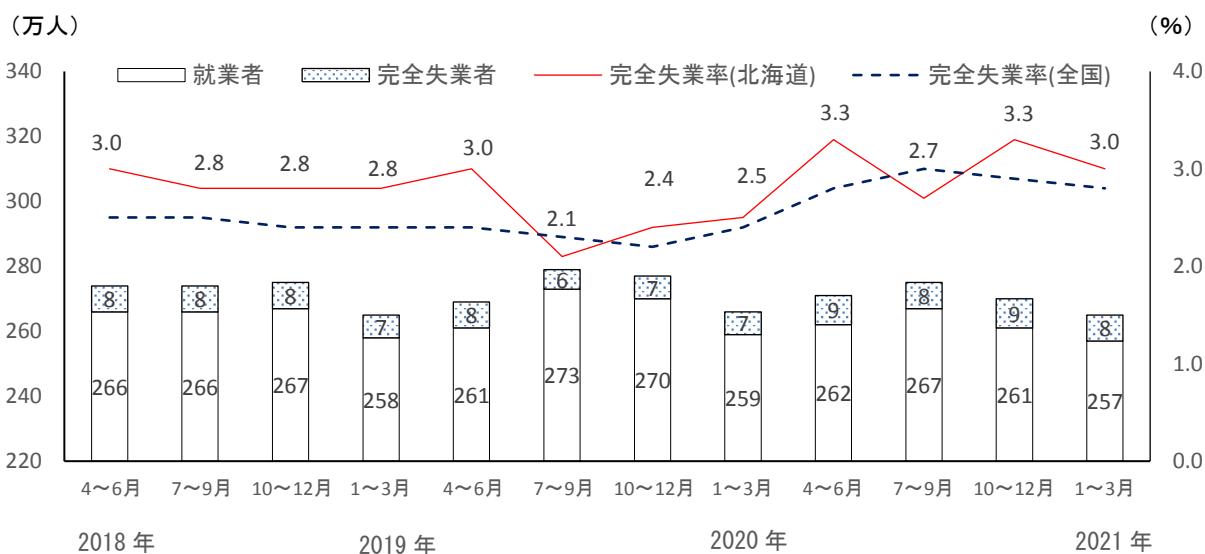
■各圏域の月間有効求人倍率（右軸は前年同月差）



(資料:北海道労働局)

完全失業者数、完全失業率（令和3年1－3月）

完全失業者数は8万人で、前年同期と比べ1万人増加している。
完全失業率は3.0%で、前年同期と比べ0.5ポイント上昇となっている。

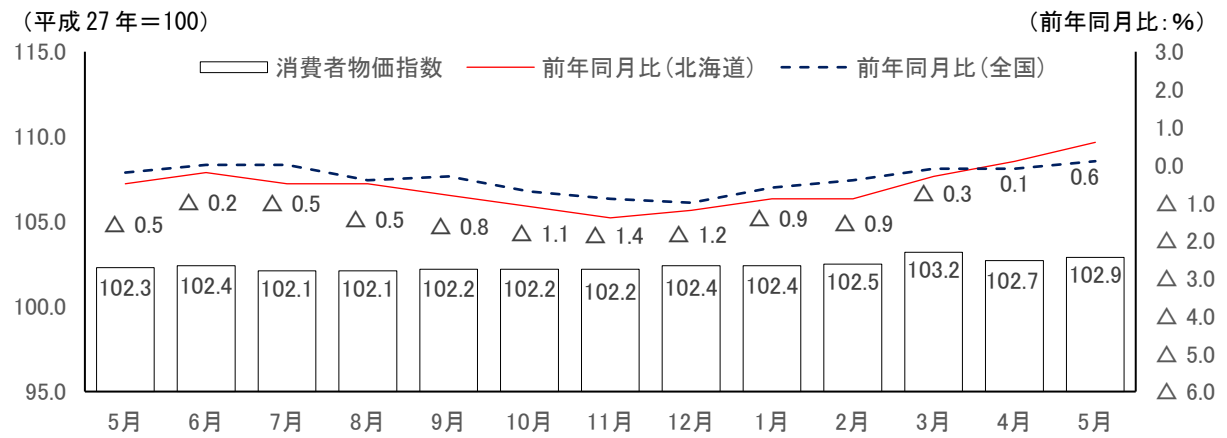


(資料:総務省)

■物価～消費者物価指数は前年を上回った

消費者物価指数（5月）

消費者物価指数(生鮮食品を除く)は、102.9 で前年同月比 0.6%の上昇となり、2 か月連続で前年を上回った。



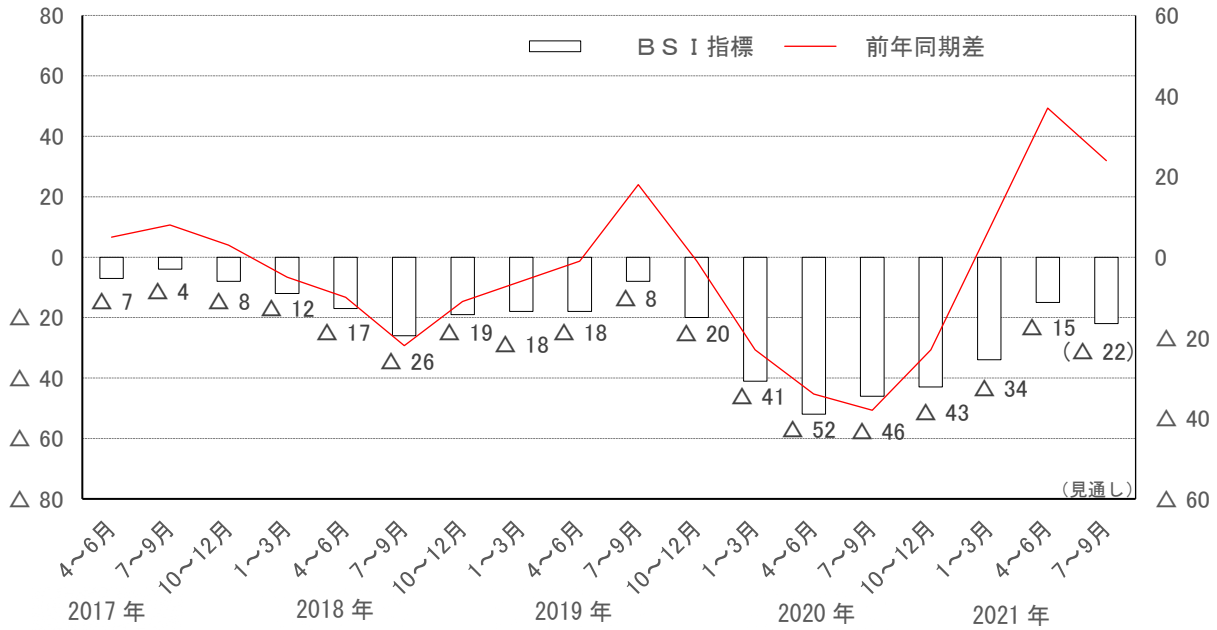
(資料:総務省)

■企業経営者意識調査～前期から上昇している

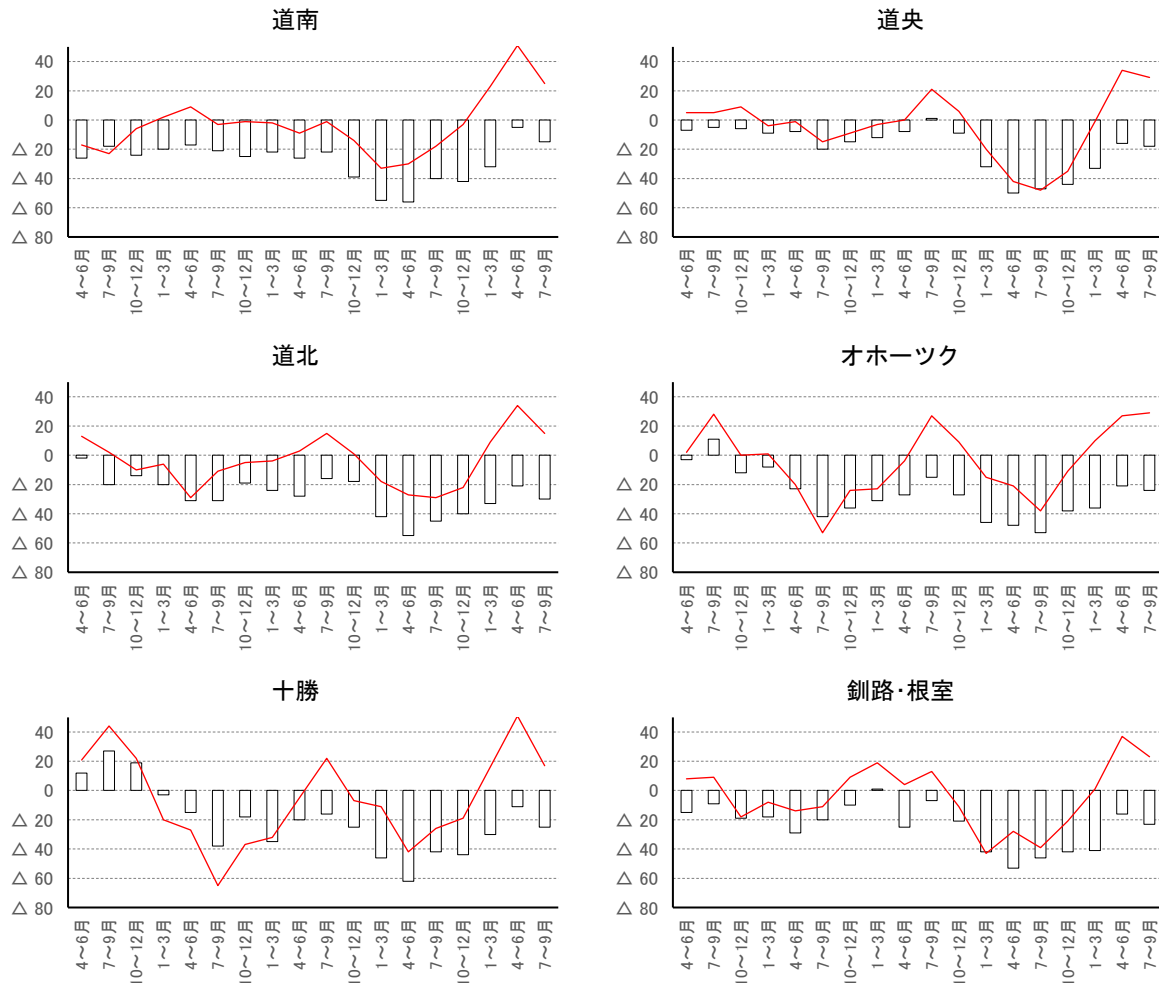
令和3年4～6月期の業況感BSIは△15ポイントで、前期から19ポイント上昇しており、前年同期より37ポイント上昇している。来期見通しは△22ポイントで、今期から7ポイント下落の見通しとなっている。

(BSIポイント)

(前年同期差：ポイント)



■各圏域の業況感BSI (折れ線グラフは前年同期差)



(北海道経済部調べ)

■企業のみなさまから伺いました

◆百貨店（道央地域）

【催事の中止などで客数減、スポーツ用品は好調】

6月は5月から緊急事態宣言やまん延防止等重点措置期間中であったため、大型の催事が中止となるなど来店者数が伸びず、売上も減少傾向となった。

高級時計やブランド品などの高額商品は引き続き好調であり、外商顧客に対するサービスなど今後はよりターゲットを絞った戦略を練っていきたい。コロナ禍で密にならない娯楽として注目されている、ゴルフ関連商品などのスポーツ用品も好調であった。お中元については、会場の密をさけるため、ネットでの購入者に対して、ポイント加算や送料の割引を行うことにより、ネット販売への誘導を行っている。

【7月は回復傾向】

7月12日にまん延防止等重点措置期間が明けてからは、回復傾向ではあるものの、感染者数が増加してきているので、今後はコロナの状況次第と考えている。

◆スーパー（道央地域）

【天候に恵まれ売上・客数ともに伸び】

6月は、売上・客数ともに前年比で伸びたが、緊急事態宣言の解除よりも天候要因によるものが大きかった。5月は天候の影響でレジャー関連の動きは不振であったが、6月11日に札幌で今季初の30℃越えを記録したことで、アイスなどの涼味と行楽関連の動きは良かった。また、気温上昇に伴い、夕方から夜間にかけての売上伸張が目立った。

北海道産メロンの予約販売は、月の前半は前年比を大きく上回る売上であったが、後半に大きな伸びはなく、前年を若干上回る程度に落ち着いた。

◆コンビニエンスストア（道央地域）

【緊急事態宣言明けから動き】

6月の緊急事態宣言の期間中は、オフィスや繁華街の店舗でマイナスの影響が出たが、住宅地に隣接する店舗の来店客数は堅調だった。人流は徐々に回復しており、下旬に宣言が明けてからは繁華街でも動きが出てきている。観光地の客数は昨年対比で増加しているが、コロナ前までは戻っていない。

6月は天候に恵まれたこともあり、全体としての客数は増加した。飲料水、アイス、冷たい麺類の売上が増加し、アルコールではビール・サワーが好調で、売上は増加した。

最近の経済動向

令和3年7月号

編集・発行 北海道経済部経済企画局経済企画課

TEL 011-204-5139

「最近の経済動向」のデータ集は、北海道のホームページでご覧になれます。

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kks/ksk/tgs/saikin-doukou.htm>